

## 「使命」は魂を

### 成長させる事

先月号では、「人と人との交流の大事」について、私が感じることを語らせて頂きましたが、今月号では具体的に、私達がどの様な考え方、物の捕らえ方で生活する事が良いのかを考察していきたいと思えます。その前にまず確認しておきたい事があります。私達は「人生を肯定的に生きねばならない」ということであります。

肯定的と言っても、私達、特に日本人には否定的思考がしっかりと染みついてしまっていて、肯定的に生きることがどうも苦手になってしまったような気がします。

先日あるボランティア団体の主催する、小中学生参加のキャンプに参加した時のことです。出発に当たって指導員の一人が子供達を前に「このキャンプは大変だぞ。雨には濡れるし、事故が起きるかも知れない。辛いこともたくさんある。耐えろよ。駄目な人間は置いていくからな。」という内容の話をしました。キャンプがいかに辛くて大変なものかを、30分にわたって延々に説いたのです。『大変だ。事故が起きる。辛い、駄

目、置いていく』と、まさに否定言葉のオンパレードでした。

こういう言葉を聞いて子供達は恐れおののきました。物事が起きる前に心配し「雨が降った」「車が来た」と言っただけは過剰に反応し、不安で一杯になってしまふのです。『転ばぬ先の杖』もほどほどにしないと、何も出来なくなってしまうのです。なので次に私は子供達に、「このキャンプは辛いことも一杯あるだろうが、楽しいこともたくさんあるよ。大変な経験をした後には、お金では買えない大きな何かを得ることが出来るんだよう。だから一緒に楽しもうね」と肯定的お話を投げかけました。そして実際に辛い事が起きても「これでいいんだ。よかったよかった」と、思えるように促したのです。

勿論これは子供達に限ったことではありません。物事を肯定的に捉えた上で、大切なことは「与える事」と「感謝する事」です。

母方の祖父は、常々私に次のように教えてくれました。「大きな深呼吸をしなさい」と。まず息を大きく吐いて、それから大きく息を吸い込みなさい。そうすれば新鮮でもたくさんさんの空気を吸い込むことが出来る。まずは「息を吐きなさい」です。

つまり人に善意と好意をまず与え続けていると、それ以上のものになって自分に返ってくるという教えなのです。「出入り口」だって、まず出るから、入る事が出来ます。だからまずは自分の持っているものを出すことが物事の初めだと言うのです。

宇宙にはこの様な法則が厳として存在します。繁栄はまず良きものを与えることから始まるのです。また、人は貰ったものを自分の周囲に返そうとします。喜びを与えられたら喜びを、憎しみを与えられたら憎しみを、いじめられたら怒りを返そうとします。難しい話ではありません。ところが「与える」という発想に私達は慣れていません。だから発想を180度転換し、与えることが難しい人は、「自分が少し損をしながら毎日を生きてみる」、この様に考えるといいでしょう。

一つ、飲食店を例にとりましょう。飲食店経営で大切なのは、値段に見合った料理よりも、ちよつとでもいい品物を出すことです。1000円の料理だったら1100円の品物を出すようにします。つまり100円だけ店が損をします。そしてお客さんに良きことがあるように祈りながら料理を作るのです。突飛なことを言っているように聞こえると思いますが、不思議なこと

に1100円が、別の形で1500円にも2000円にも、あるいは値段の付けようがないくらい有り難い現象として、必ずプラスになってしまふのです。この事は私自身の人生と体験の中で確信している事です。

ところが法則を知らない人（普通）は「ちよつとはもうけないと損だ」と考えて、千円の料理なら九百円の料理を出そうとします。ほんの少しケチります。その結果、その邪な心に気付かれ、お客さんを遠ざける結果を自ら招いてしまいます。

儲け優先のお店には「鋭さ」があり、お客さんの喜びに参加するお店には「安らぎと心地の良さ」があると思うのです。

人は心地良いもの、良きエネルギーにお金を出そうとします。高くても心地よい服装に、また心地よい音楽に、お金とエネルギーで交換しようとしてます。特別に「稼ぐ」という考えをしなくても、良きものと安らぎと平和な気持ちを与え続けさえすれば、人はお金というエネルギーを払おうとします。周りの人を助け、良きものを与えれば信が出来ます。今の日本で大事なものは「利よりも信」「拡大よりも充実」を選ぶことではないでしょうか？

言い換えると、「与える」とは他の

為に生きることでもあります。同じ

繁栄でも、自己の繁栄だけを望んで

何かをやったとしても、それは自滅

への道に他なりません・・・。

（今月は紙幅の関係上、この続きは

来月号に持ち越したいと思えます。）

どうかこの一ヶ月は試しに、周りの

人に尽くして日々を送るように努め

てみましょう。

合掌 副住職 谷川 寛敬